

《フィリピン》

新上院議員 (野党連合) のプロフィール

〔人物データ・ファイル〕

(2001年5月14日投票の中間選挙：当選確定6月4日、就任6月30日)

(上院定数24議席中改選12、補選1：計13議席)

(無所属1、与党連合「ピープルパワー連合」8、野党連合「大衆の力」4)

《野党連合「大衆の力」》

■エドガルド・アンガラ
Edgardo Javier Angara



アウロラ州の中産階級に生まれる。米ミシガン大学から法学修士号を取得した有力弁護士。70年代初めにフィリピンで最も権威のある法律事務所のひとつ、「アンガラ・コンセプション・クルス・レガラ・アベロ (ACCRA) 法律事務所」を創設した。80年代にはフィリピン大学学長としてマルコス政権による大学自治への干渉と闘いながら、同大学の財政再建と人材育成に貢献したことで知られる。アキノ政権を誕生させた1986年の「繰り上げ選挙」で「自由選挙のための国民運動」(NAMFRELE)議長を務めたことで政界でも頭角を現す。87年、上院議員に初当選(第5位)。92年に上院議員に再選(第3位)され、ラモス政権下で上院議長に就任したが、与党内の路線対立で野党院内総務に転じる。

98年総選挙でエストラダ大統領候補(当時)とのコンビで副大統領に立候補したが落選。短期間フィリピン国立銀行(PNB)会長を務めた後、99年にエストラダ政権の農相に就任した。同氏はエストラダ政権で旧ラバン系の政治家およびフィリピン大学教授出身の経済テクノクラートを率いる派閥のリーダー格だった。「ピープルパワーII」でアロヨ現政権が誕生した今年1月20日までのエストラダ政権最後の2週間、官房長官を務めた。5月14日投票の中間選挙で古巣の上院議員(第9位)に戻った。

上院議員としては、教育、保健、芸術・文化、農業の各分野で重要法案の制定に尽力した。特に、高校の授業料を無料にする法案の起草者として有名。また、新国立博物館の設立、国家文化・芸術委員会の創設などのインシアティブもとっている。

▼データ

【現職】上院議員

【政党】野党連合「大衆の力」(Pwersa ng Masa) / 「フィリピン民主の戦い」(LDP: Laban ng Demokratikong Pilipino)

【愛称】エド(Ed)

【年齢】66歳(1934年9月24日生まれ)

【生地】アウロラ州バレル

【学歴】

1958：フィリピン大学卒(法学士)

1964：米ミシガン大学で法学修士号取得

【経歴】

1971：憲法会議代議員

1987：上院議員に初当選

1992：上院議員に再選(-98)

1993：[1月] 上院議長(-95年8月)

1999：[5月] 農相

2001：[1月6日-20日] 官房長官

(エストラダ政権)

[5月14日投票] 上院議員に当選

(6月30日正式就任)

【歴任】

1971：フィリピン弁護士会会長(-81)

1975：フィリピン法曹協会会長(-76)

1980：ASEAN法律協会初代会長(-81)

1981：フィリピン大学学長(-87)

1987：上院保健・教育・芸術・文化委員会委員長

1990：議会教育委員会委員長(-91)

1992：上院財政委員会委員長(-93)

1997：議会農業・食糧・外務・経済問題委員会委員長

1998：フィリピン国立銀行(PNB)会長(-99)

【党務】

1994：「フィリピン民主の戦い」(LDP) 党首(-98)

1995：上院少数派院内総務

1998：LDP党首(-現在)

【家族】グロリア(Gloria Manalang)夫人との間に2男2女

【横顔】

・国内の6大学から法学、人文科学などの名誉博士号を授与されている。フィリピン大学

からは「最も傑出した同窓生賞」を受賞。

・農相時代の末期(2000年後半)に国際環境保護団体「グリーンピース・インターナショナル」からフィリピン農業省が遺伝子組み替え農産物を使用した加工食品の国内への輸入を斡旋したとして非難を浴びたことがある。

■パンフィロ・ラクソン
Panfilo Morena Lacson



上院選に立候補する前は、フィリピン警察軍(PC)時代以来の一貫した警察官僚としての経歴を持つ。ラモス政権下でエストラダ副大統領(当時)が兼任していた大統領府犯罪防止委員会委員長の「副官」としてエストラダ氏の信任を得た。1998年のエストラダ政権成立に伴い、大統領府の犯罪防止タスク・フォース(PAOCTF)司令官を経て、99年11月から国家警察庁(PNP)長官。エストラダ前大統領への忠誠を貫いた形で、アロヨ現大統領が就任した翌日(1月21日)に辞表を提出した。

エストラダ前大統領の逮捕に抗議するデモ隊の一部が、5月1日未明に大統領府を「急襲」した事件では、ホナサン上院議員、エンリレ前上院議員らとともにアロヨ政権打倒を首謀した容疑で同氏に対する逮捕状が出たため一時期潜伏したが、上院選の投票日直前に姿を現した(法務省は逮捕状の執行を停止している一方で、政治勢力間の和解のために同氏らを不起訴処分にすることを検討している)。

支持者からはPNP長官として警察機構改革に貢献したとの評価がある一方で、現役警察官僚時代および現在でも捜査中の複数の誘拐事件への関与など「裏の顔」がとり沙汰されているのも事実である。また、アロヨ政権打倒を目指す「陰謀」を画策しているとの噂も絶えず、国軍・警察内には現在でも支持勢力を温存しているといわれる。上院議員に第10位で当選したこと自体、単なるエストラダ前

大統領支持者だけではなく、選挙民の間で広範な人気を保持していることを証明している。

▼データ

【現職】上院議員
【政党】野党連合「大衆の力」／「フィリピン民主の戦い」(LDP)
【愛称】ピン(Ping)
【年齢】53歳(1948年6月1日生まれ)
【生地】カピテ州イムス
【学歴】

1971：フィリピン陸軍士官学校(PMA)卒
国軍参謀学校修了

【経歴】フィリピン警察軍(PC：Philippine Constabulary)入隊
(セブ市：情報担当)
PCイサベラ州司令官、のちラグナ州司令官
大統領府犯罪防止委員会委員長主席補佐官

1998：[7月] 大統領府組織犯罪防止タスク・フォース(PAOC TF)司令官

1999：[11月] フィリピン国家警察庁(PNP)長官

2001：[1月21日] PNP長官を辞任
[5月14日投票] 上院議員に当選
(6月30日正式就任)

【家族】「家庭人」として有名。アリス(Alice de Perio)夫人との間に3男

【横顔】

・1992年に「PCディレクター・オブ・ザ・イヤー」に選ばれた。98年には、PMA 同窓生功労賞を受賞。
・同氏が「逆風」にかかわらず上院議員に当選した背景には、同氏の「政治参謀役」リト・バナヨ(Lito Banayo)氏の支援が大きかったといわれる。

■ルイサ・エストラダ

Luisa Pimentel Ehercito Estrada, Dr.



ジョセフ・エストラダ前大統領夫人で上院選では第11位で当選。精神科医で、国立精神衛生センターに勤務した後、メルボルンのロイヤル・パーク病院で高名なジョン・ケイド博士の薫陶を受けた。貧困層の住民に対する無料カウンセリングなどで一般にも知られるようになる。1989年には財団を創設し、全国の苦学生に奨学金を提供する活動も開始。98年6月に夫が大統領に就任すると、ファースト・レディとして NGO 活動の支援などを通して特に僻地や都市貧困住民の公衆衛生・栄養・医療環境の改善に尽力した。

今年1月20日にエストラダ氏が「ピープルパワーⅡ」で退陣を余儀なくされたのに伴い、上院選への出馬を決意した。4月下旬に発生したエストラダ前大統領支持者による前大統

領逮捕への抗議行動では、アンガラ上院議員らとともに「穏健派」に属し、ホナサン上院議員やラクソン上院議員らが主張するアロヨ新政権打倒に向けた「武闘」路線に反対したといわれる。

▼データ

【現職】上院議員
【政党】野党連合「大衆の力」／無所属
【愛称】ロイ(Loi)
【年齢】71歳(1930年6月2日生まれ)
【生地】ザンバレス州イバ

【学歴】サント・トマス大学医学部卒
(豪メルボルン)ロイヤル・パーク病院で修士課程修了

【経歴】国立精神衛生センター
(旧国立精神病院)勤務
(豪メルボルン)ロイヤル・パーク病院
(サン・ファン)サン・マルティン・デポレス病院

1998：[6月] (エストラダ大統領就任に伴い)ファースト・レディ
(→2001年1月20日)

2001：[5月14日投票] 上院議員に当選
(6月30日正式就任)

【歴任】

1989：「エラップ・パラ・サ・マヒラップ」財団創設者・総裁

【家族】夫：エストラダ前大統領

【横顔】

・漁港の町イバの公務員(技師)だった父ルフィノ・ピメンテル(Rufino Pimentel)は同(ルイサ)氏が6歳の時に死去。母マヌエラ(Manuela Fernandez)の手で育てられ、おじ達の支援を受け医学部に学んだ。

■グレゴリオ・ホナサン

Gregorio Ballesteros Honasan II



今回の上院選で第13位で当選したため、改選議席12議席(任期6年)の当選者ではなく、非改選上院議員だったが(アロヨ現政権の)副大統領兼外相に転身したテオフィスト・ギンゴナ(Teofisto Guingona)氏の任期を引き継ぐ補欠選挙の当選者になる。従って、任期は3年。

現役軍人時代は「軍人の中の軍人」といわれ、当時最年少の大佐に任官した。ファン・エンリレ(Juan Enrile)前上院議員がマルコス政権の国防相だった時に、同氏の右腕的存在となった。「国軍改革運動」(RAM)のリーダーでもあり、86年の「ピープルパワーⅠ」(エドサ革命)では、エンリレ国防相、ラモス参謀総長(後に大統領)とともにマルコス大統領に対する決起の中心的存在となった。しかし、同革命後に就任したアキノ大統領の統治スタイルへの反発と共産勢力の伸張への危機

感などから87年8月にアキノ政権に対する決起事件を起こし逮捕された。88年に留置施設から脱走して地下に潜伏。その後も89年12月の大規模なクーデター未遂事件を主導するなど数回の反乱事件を起こした。ラモス政権が93年1月から開始した反乱将校との和平交渉の結果、表舞台に復帰。

95年の上院選(中間選挙)で初の無所属候補として当選(第9位)。上院議員としては、ミンダナオ開発援助、国家安全保障の枠組み、反政府勢力との和平問題など得意の分野で影響力を發揮するとともに、住宅問題、農業改革、環境問題の立法にも尽力している。現在はエストラダ前大統領支持派(野党連合)の「急進派」とされているが、前大統領の側近というよりは常に反体制に回る「異端児」的な色合いが濃い。その辺が、同氏が一定の支持層を持つ理由といえるだろう。

▼データ

【現職】上院議員(補欠選当選者：任期3年)
【政党】野党連合「大衆の力」／無所属
【愛称】グリンゴ(Gringo)

【年齢】53歳(1948年3月14日生まれ)

【生地】バギオ市

【学歴】

1971：フィリピン陸軍士官学校

1981：アジア経営大学(AIM)で経営学修士号取得

【経歴】

1971：陸軍空挺部隊(北部・中部ルソン)配属
1972：第一混成歩兵大隊配属
ミンダナオ島での反政府軍掃討作戦に従事

1981：国防省保安部隊長

1986：陸軍特殊作戦学校長

(ヌエバ・エシハ)フォート・マグサイサイ訓練司令部
国軍情報局長

[2月] マルコス大統領に対する決起に参画(「ピープルパワーⅠ」)

1995：[5月] 上院議員に当選

2001：[5月14日投票] 上院議員に再選
(6月30日正式就任)

【歴任】

1983：ベアトリス・マーケティング社社長
ハシント(Jacinto)企業グループ
取締役

北ミンダナオ開発銀行理事

【家族】ジェーン(Jane Umali)夫人との間に3男2女

【横顔】

・70年代にミンダナオ島での戦闘行動中に負傷。3つの「ゴールド・クロス勲章」を授与されるなど、実戦部隊での戦功には顕著なものがある。

・エストラダ前大統領の弾劾審議で、「ベラルデ」名義の銀行口座の明細が入った封筒を開封することに反対した11人の上院議員の一人。

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)